

高山

たかやま
高山の原生林を守る会

会報 第 91 号
2014年12月



第 136 回自然観察会～龍ヶ岳自然林と鳩峰峠の植林地観察会に参加して 後藤洋子・千葉裕子

9月28日、第136回観察会「龍ヶ岳自然林と鳩峰峠の植林地観察会」に友人の誘いで参加させて頂きました。朝から絶好の秋晴れ、最高の観察会でした。龍ヶ岳へ向かう途中、見られる花ばな、ノコンギク、カワラナデシコ、アキノキリンソウ、キンミズヒキ、シオガマガク、その他にも色づいた木の実などたくさんありましたが、山の会の皆さんは、ルーペを片手に花を見つけてはすぐ名称や違いを言えることに「すごい」と感心しました。また、分からないものは後に残さず宿題で、ここがすばらしいです。

観察に時間がかかり途中から山頂目指し少し急ぎ足になりましたが龍ヶ岳山頂の三角点を見ることができ、眺めも良く最高の気分を味わいました。

下山した頃は、お昼近くで次の場所鳩峰峠の植林地へ移動。道が分からない私にはミステリーツアーのようで車が入って行くことにびっくりでしたが、植林されたミズナラと聞き3年に1回観察に来られているそうで、高さ5メートル近くまで伸びた木にはドングリが何個か見られました。その周り一面にノコンギクが花畑のように咲いていました。

この観察会に参加し、このような活動を知ることができたことは感動です。

そしてもう1つの楽しみお昼には芋煮会、2つの鍋それぞれご馳走になりました。酒粕入りの芋煮汁は初めての味で、とても美味しく自宅でも作ってみようと思います。

お世話になりました、ありがとうございました。



龍ヶ岳山頂にて



ハッカ



カワラナデシコ



ヒヨドリバナ

鳩峰峠広葉樹植林地の現在

高山の原生林を守る会では、2002～2008年の7か年にわたって鳩峰峠の牧草地で植林を行いました。当時は全国的に植林ブームで環境税など公的資金を活用した植林も行われました。その多くはブナ林の再生を目指したものでした。当会が実施した植林もブナ林再生を目指したもので、その経緯と内容は以下のようなものでした。

1. 植林地の由来: 国有地をJA高島が借り受けて経営していた鳩峰牧場を閉鎖することになった。借地を国へ返還するためには現状復帰が条件とされていることからJA高島が広葉樹の植林を計画した。当会はこの事業に協力する形で参加した。
2. 標高は700m～750m。現地はブナ林の開墾地であり、ブナの壮木が残っている。先駆的樹種のカバ類では、ハンノキの幼樹が既に育ちつつあり、マント植生ではタニウツギ、アキグミが再生定着していた。

3. 植林した樹種と選定理由

(1) 樹種: ミズナラ、コナラ、アカシデ、クマシデ、イタヤカエデ、トチノキ、ナナカマド

(2) 選定理由

- ① 自然遷移によるブナ林形成のための環境を整えるため、ミズナラ林を養成する。
- ② 翼果を持つ樹種(シデ類、カエデ類)を中心に植栽すれば、風によりかなりの範囲まで自然は種されるため、かなりの速さで二次林の復活が期待できる。
- ③ どんぐりを安定生産するミズナラ林を育成し、鳥類や小動物のえさを確保する。

当初は労働組合などの植林イベントも催されましたが、7年間継続的に実施したのは当会のみでした。植林した苗は福島森林管理署を通じての購入苗が中心でしたが、試行的に現地のブナの芽生えを採取、各会員に養成されたものや会員のコナラの芽生えなども植樹しました。また苗の購入資金の一部として、当会や当会会員が所属していた福島山想会からの経費も充てられました。7年間で植栽した苗は約2000本、植栽に参加した会員は延べ198名でした。

今回の観察会では、マザーツリー近辺の生育良好なミズナラ、コナラ、クマシデ併せて5樹の樹高、樹幅、幹周(高さ70、130cm)を測定しました。ナラ類は、樹高3～5mまで達し、結実も確認されました。クマシデはナラ類より更に生育が良好でした。対照的にイタヤカエデは極めて生育が不良でした。ブナは、活着したもののナラ類よりは生育が劣っていました。ミズナラに隣接したマザーツリーの芽生えと思われるブナは比較的良好な生育をしていたことが注目されました。今回の調査から上記選定理由の3項目の内①、③は目的通り経過していますが、②のイタヤカエデについては見込み違いでした。また、クマシデは山形県での自生地は極めて少ないことが植林後、判明しました。今後の生育経過を注視していきたいと考えています。なお、植林地ではブナ林では見かけることの少ないイノシシの砂浴び跡が広範囲で観察されました。攪乱により植生が変化するのでしょうか。



ブナのマザーツリーと植栽樹



樹高測定



樹幅測定

植栽樹の樹体調査(測定日:2014/9/28)

No	樹種	樹高 m	樹幅 m	胸回り		植栽年
				70cm(分岐部)	130cm	
1	クマシデ1	4.5	5.0	46.5	-	2003
2	ミズナラ1	3.1	2.9	25.8	-	2003
3	コナラ1	4.9	2.7	20.4	17.9	2003
4	ミズナラ2	3.9	3.2	23.5	19.5	2003
5	コナラ2	5.1	3.2	22.7	20.3	2003

第 137 回自然観察会～弁天山、里山の陽だまり観察会に参加して

古内真由美

高山の会に入会して、早稲沢夏の山岳植物観察会以来、2回目の参加でした。9月の龍ヶ岳自然観察会と鳩峰峠の観察会も楽しみにしていたのですが、地区の運動会があり、欠席しました。今回の弁天山には行きませんでした。私が小学校の遠足で行った記憶があり、また、子供が保育園で散歩に連れて行ってもらったところでした。

歴史と自然にあふれている小倉寺観音入口から歩きはじめると紅葉のきれいなもみじがあり、葉を見ながらもみじの種類やオオモミジ、ヤマモミジの見分け方を教えていただきました。最低気温が8℃以下になったら紅葉が始まるとのことでした。サザンカの花もたくさん咲いていました。大蔵寺千手堂は歴史を感じる古い建物でした。この近くで今の季節には珍しく葉の裏と木の皮にセミの抜け殻がくっついていたのにはびっくりしました。

落葉を踏みしめて歩いて行くと、ナラの木に寄生して育つという羽子板の羽根に似たツクバネ、綿毛のようなセンボンヤリ赤い実のヤブコウジ、そして葉についていたピンクの小さい実はムシコブという虫のタマゴが入ったできものでした。歩いていて見落としてしまうくらい小さい一輪のマキノスミレは落ち葉の中に紫の花をひっそりと咲かせていました。写真を撮ってみたもののうまく撮れませんでした。更に歩いて行くとヤマコウバシを見つけ葉は茶色に枯れていましたが、小枝を折るといい香りがしてくるのでこんな名前がついたとか。

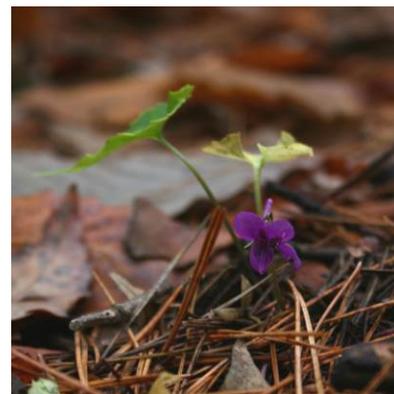
カヤの木の大木もあり、イヌガヤ、チャボガヤ、ハイヌガヤと種類がありますが、気候、風土により生育が異なるとの事でした。クヌギは里山の代表的な木で、樹の皮はコルクと呼ばれる層が発達しボコボコしていました。これとは反対にケヤキは樹の表面がサメ肌様で対照的でした。葉も木の種類により形、大きさ、葉のまわりのギザギザの有無などが違うことが分かりました。特にオオモミジの見分け方は、オオモミジは葉の先端が不明瞭で裂刻が浅く、ヤマモミジは先端が細長く、鋸歯が深く切り込み、裂刻も深いことを覚えました。

昼食は、男子更衣室を借りて、皆さん持ち寄りの手作りのおかずをいただき、作り方やコツなどに話がはずみました。ごちそう様でした。総会では来年の観察会の予定が決まり、なるべく参加したいと思っています。

放射線量のお話では、目に見えないものなので、少しずつは線量が下がっているとはいえ、不安です。来年3月で震災後5年目に入りますが、一日も早い復興を願っています。今後も調査を続けていろいろ教えていただきたいと思います。皆様、お世話になりありがとうございました(平成 26 年12月13日)。



うまく写るかな



マキノスミレ



これ何かな



ヤブコウジ



クヌギ

高山の原生林を守る会 2014年定期総会報告

2014年11月30日(日) 午後13:00～15:30

福島市東部学習センター

1. 2014年活動報告

月 日	内 容	参加 人数
11月24日(日)	第131回 第131回 高松山(蛾嶺山)里山陽だまり観察会	14名
2月23日(日)	第132回 高湯-不動沢登山道周辺ブナ林雪上観察会	4名
4月29日(火)	第133回 奥土湯ブナ林・スプリングエフェメラル観察会	20名
5月25日(日)	第134回 古霊山自然林新緑観察会	15名
6月21日(日)	西吾妻登山道誘導ロープ設置ボランティア(NF 米沢と共同)	4名
7月6日(日)	第135回 早稲沢夏の山岳植物観察会	12名
8月23日(水)	西吾妻山城登山道保全に係る環境省東北地方環境事務所裏磐梯自然保護官現地説明	2名
9月23日(火)	霊山空間線量調査(学習院大学・村松教授同行)	3名
9月28日(日)	第136回 龍ヶ岳自然林と鳩峰峠の植林地観察会	14名
10月18日(土)	西吾妻登山道誘導ロープ取り下げボランティア	5名
11月11日(火)	吾妻山周辺森林生態系の保全管理に関する検討会(主催:置賜森林管理署)	1名
11月30日(日)	第137回 弁天山・里山陽だまり観察会・総会	14名

2. 2014年会計報告(11月25日現在)

収入の部		支出の部	
科目	決算額	科目	決算額
前期繰越金	181,747	会議費	0
会費	32,000	郵送費	17,320
観察会参加費	22,100	観察会経費	3,953
書籍販売	0	交通費	10,000
カンパ	17,000	保険代	31,700
諸謝金	0	渉外費	0
その他	0	雑費	3,000
合計	252,847	予備費	0
		合計	65,973

平成26年度決算額
186,874円(次年度繰越金)

3. 皆勤賞

松井さき子

4. 2015年活動計画

(1) 2015自然観察会は、別項へ

(2) 山岳の放射線量調査

2011年より継続している学習院大学村松教授の霊山の放射能汚染調査を実施する

調査候補山岳:箕輪山、高山、花塚山、虎捕山、野手上山、高太石山

(3) 西吾妻山城登山道保全管理に関する検討会の設置にむけた活動

西吾妻山城登山道保全管理に関する検討会設置について置賜森林管理署、環境省裏磐梯自然保護官事務所、NF 米沢との連携を図る。

(4) 高湯地区共有林放射能除染土壌仮置き場設置問題に対する対応

高泉修氏、県自然保護協会との綿密な情報交換により、共同歩調を図る。

5. 役員

代表 佐藤 守 事務局長 奥田 博 会計 山内幹夫 会計監査 山口嵩

幹事 小幡仁子、佐藤和重、佐藤久美子、鈴木勝美

会報/HP 佐藤 守/鈴木勝美

12 月になってあちこちで雪の便りが聞こえると、土曜日・日曜日の朝、鹿狼山の駐車場は大勢の登山客で賑わう。車を停めるスペースがないくらいだ。震災以降は飯館村・浪江町・双葉町等の阿武隈山系の山は放射能汚染により歩き難いものがあるから、放射能が少ない阿武隈北部に人が集まっているのだろう。鹿狼山以北の山々もずいぶん整備され、道標も新しいものになっている。冬枯れの日、木々の間から青空を垣間見たり、西には蔵王連峰、東には太平洋を眺めたりしながらの山歩きは楽しいものである。大勢の人が集まるのは頷けることだ。

さて、今日は久しぶりに鹿狼山に一人で来た。震災以降は姉や山友達と一緒に登ることが多くなった気がする。あの震災以来、「世の中、いっただんなことが起こるか分からない」という漠たる不安感が消えない。どんなことが起こるか分からないのは当たり前なこと、そんなことを気にしていたら何も出来ないとは分かりきっていることだ。しかし、心の奥に病魔のように巣くっていて、何となく気が晴れないのを感じている。また、「鹿狼山に熊が出た」というニュースが流れた時に、高齢の父が、私が一人で鹿狼山に登るのを心配したせいもあったかもしれない。熊の正体は大きな黒いイノシシだったらしいが、一人で登るより複数の方が安全で安心ということになったのだと思う。

若い頃は、よく一人で山歩きをした。飯豊連峰のように標高が高く山懐が深く、山小屋に泊まらなければならないような山でも、大して怖いとも寂しいとも思わずに歩いたものだ。今から 30 年も昔のことである。一人で歩きたかったのか、たまたま一緒に登る人がいなかったのかは覚えていない。ただひたすら足を前に出して、がむしゃらに歩いた記憶がある。若かったから、自分の力を試したかったのかもしれない。前を見ても、後ろを見ても誰もいない、ただ、来し方行く末に一本の登山道があった。遠く懐かしい思い出である。

一人歩きは存外気楽で楽しいものだ。自分のペースで歩けるし、好きなときに休み、好きな時に写真を撮り、誰かに気を遣うこともない。花や樹木、風やお日様が友達だ。一人で歩いた方が自然を身近に感じるかもしれない。単独で歩く人は年代に関わらずどの山にもいる。みんなそれぞれに、自分の自由な時間と自然を楽しんでいるのだと思う。

子育てが一段落して山登りを再開してからは、一人での山歩きをほとんどしていない。一人で歩くのは鹿狼山だけだ。体力的なことや家族のことを考えると、無理は出来ないと思うようになった。それに、気心の知れた山仲間と一緒にあちこちの山に行くのが楽しい。また、「高山の自然を守る会」で自然観察会を始めてからは、会員の皆さんとともに、自然の美しさや不思議を学ぶ機会を得て、色々なことを教えてもらうことが多い。ルーペを通して見る花々や樹木の世界は驚くほどに緻密でよく出来ており美しい。そこには「感動の世界」が広がっている。そして、その感動を仲間と分け合うこともうれしいことである。

自分の山登りに「自然観察」という視点が加わってからは、山々の印象はまた別なものになってきた。植物は地域によって植生が違っている。あちこちの山に行く度に、今度はどんな花や樹木に会えるかと楽しみが増えている。

今日、鹿狼山を一人で歩いたご褒美は、アオゲラに出会えたことだ。コゲラはよく見かけるが、鹿狼山でアオゲラに出会ったのは初めてだった。人の少ない午後一人一人で歩いたのが良かった。アオゲラは暗緑色だからそれとすぐに分かった。頭と顔に赤い線があったから雄である。お腹にはコゲラと同じような黒い縞模様があった。なかなかファッションブルな鳥である。杉の木に縦に止まって何やら忙しくつついていた。後で調べたら、アオゲラは主にアリ類を餌とし、多くは虫におかされた木をつつくらしい。健全な木をつつき回すことはなく、林業では益鳥、となっていた。虫が沢山いたのか、結構長い時間、同じ所に留まってくれた。冬になると、色々な種類の小鳥たちにも会えるが、大人数でがやがやしては見る事が出来ない。一人歩きもラッキーなことが多いのだ。(2014/12/17 記)



東側・太平洋、手前はマユミの実



西側・宮城蔵王



熊注意の看板

「大震災が教えてくれたもの」(12)

霊山での定点観測、3年を経過して

奥田 博

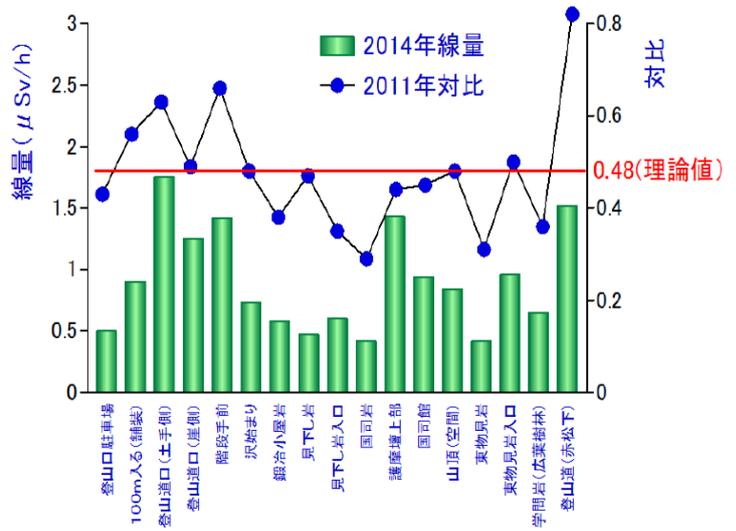
2014年11月末日の総会後、佐藤守さんから三年間の「霊山登山道の空間線量測定報告」がなされた。三年間の線量の推移は、概ね理論値と一致すること。しかし赤松の下など一部に下がっていないホットスポットが存在すること、空間に露出した岩場では、ほぼ平均値よりも下がっていること、などが解かり易く説明された。

講演の後半はセシウムの山から森を経て川に至る流路でのセシウムの動態の説明があり、岩場と落葉広葉樹と針葉樹の違いを含めて、土壌とセシウムとの関わりが、こちらも解かり易い説明があった。質問が数多く出たのは、解かり易い説明であった証でもあった。

学習院大学の村松研究室から線量計を貸与されて、計測が始まったのが2011年6月。村松教授を迎えて、霊山で第一回の計測を行ったのが2011年9月10日。以降、2012年9月9日、2013年9月14日、そして今年2014年9月23日と三年間の4回のデータが集まった。定点観測は多くのものを教えてくれている。村松先生には、毎回同行いただき、多くのアドバイスや考え方を教わった。佐藤守さんとの意見交換も貴重なお話だ。また村松先生は現地のキノコも毎回研究室に持ち帰り計測を行っている。そのデータも楽しみなところ。

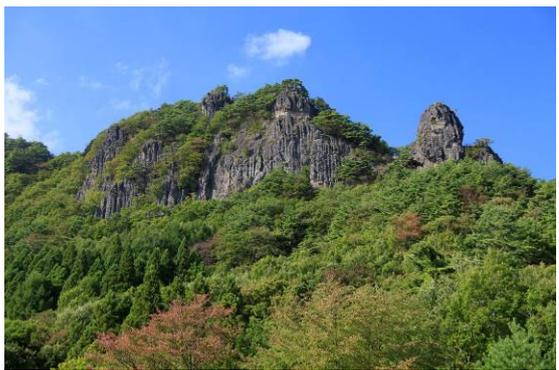
3年間で多くの線量計にも出合った。村松研究室から貸与された線量計測器は RDS31(Semiconductor)という簡易型の計器であったが、守さんは並行して TCS172(NaI) (Scintillation Survey Meter)を使っていた。常に比較校正という意味もある。GPSを備えた京大製なるKURAMAは10kgあって背負うのは大変だったが、今年はその軽量化版ともいえる1kgの Hot Spot Finder(CsI,only 2014) で進歩を重さで感じた。今後も霊山での計測は継続してゆくだろうが、新たな発見・出会いもあるだろう。

いわれなき解散による年末の総選挙は、自民党の思惑通りに圧勝。野党が調整にモタモタしている最中に抜けた感がある。原発のエネルギー問題を争点にせず、ひたすら消費税10%の延期とアベノミックスに絞った戦略は功を奏した。2015年は、原発再稼働の年になるだろう。自民党圧勝＝原発再稼働容認、という免罪符をもらったという方程式が成り立ったのだ。



Hot Spot Finder による計測 ↓ とトレース結果 ↑

2011年と2014年の線量対比 ↑



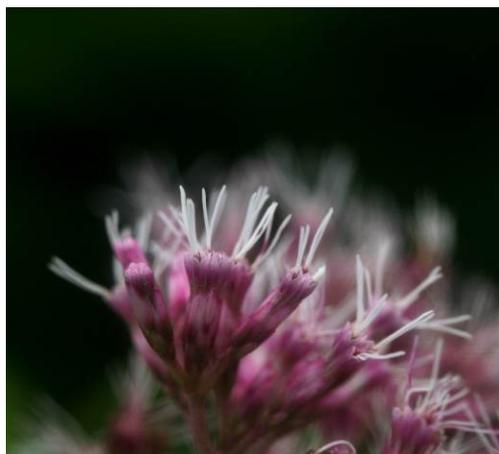
ヨツバヒヨドリ (*Eupatorium chinense* var. *sachalinense* キク科ヒヨドリバナ属)

ブナ林から偽高山の湿った草地に植生する多年草。福島県に自生するヒヨドリバナ属の植物としてはこの他にヒヨドリバナとサワヒヨドリがある。山岳では登山口から稜線上の草地までヨツバヒヨドリが圧倒的に多く、ヨツバヒヨドリの環境適応性の高さがうかがえる。

葉は4枚が輪生し、これが名前の由来となっている。時として3または5輪生の個体や、葉の発生位置がずれて互生の個体や葉腋から分岐した茎葉が互生の個体なども観察される。これらの形態的に変異した個体はヒヨドリバナの倍数体との交雑によって生まれた雑種の可能性がある。雑種個体は無性生殖型倍数体が多く、交雑をしなくとも種子繁殖ができる。葉形は長楕円形で、先端が尖る。葉縁には粗い鋸歯があり、鋸歯先端は尖る。葉の裏に腺点がある。同属のヒヨドリバナおよびサワヒヨドリは2枚の葉が対生する。

花は、頂性。花柄の先端に5個の筒状花を単位とする頭花群で構成された散形花序を形成する。花冠の先端は浅く5裂する。雄しべは5本で、5個の葯は合着して集約雄ずいを形成し雌しべの花柱に巻き着いている。5個の筒状花の基部を包む総苞片も5枚で5数性の花である。セリ科と同じく、雄性先熟で雄しべが開葯した後に、柱頭が伸長し、2つに分かれる。雌しべの基部にはガクが変化した多くの冠毛が着生している。花冠の色は緑白から桃色を経て赤紫に変化する。開花期は晩夏頃で、雌しべが成熟期になると、赤味を増した花冠から長く伸びた白糸の様な柱頭が織りなす奥ゆかしいたずまいが観察者の目を引きつける。

ヨツバヒヨドリはアサギマダラの雄の性フェロモンの前駆物質であるピロリジンアルカロイドを多く含む植物として知られる。性フェロモンは異性を誘引するための匂い物質で、性フェロモンがないと交尾ができない。アサギマダラの雄はピロリジンアルカロイドを求めてヨツバヒヨドリの花に群がる。ピロリジンアルカロイドは本来、昆虫の食害防止のため植物が生成した物質で、人間を含む動物では肝疾患などを起こす毒性がある有害物質である。ハーブティーにも含まれるので飲み過ぎには注意した方が良くもしいない。一方でヨツバヒヨドリは漢方薬としても利用される。



イワウメ (*Diapensia lapponica* L. var. *obovata* イワウメ科イワウメ属)

偽高山帯の岩場に植生する常緑樹。安達太良には植生せず、吾妻山域の限られた岩床にコロニー状に植生する。イワウメ科の3属の中で唯一の樹木類で、一属一種である。別名のフキズメクサ(吹詰草)が示すように強風にさらされる岩場を好んで植生する。細い枝が岩場を走り、厚い葉が密生してリーフマットを形成する。

葉は互生。葉形はへら型で肉厚。葉縁は鋸歯が無く、滑らかである。表面は濃い緑色で光沢がある。中央を走る主脈は明瞭であるが、支脈は浅く、目立たない。裏面は淡い黄緑色である。葉柄は茎を抱く。

花は頂性で、花柄の先端に1花だけ咲かせる。花は合弁花であるが、花冠が5裂し、裂片は平開する。花冠裂片先端の中央部は浅くくぼむ。開花した姿が梅の花に似ることが命名の由来であるが、ウメは離弁花である。雄しべは花冠裂片の間から裂片と合着して裂片と一体化したように伸びその先端が2つに分かれて葯を着生する。花色は、花冠裂片は白だが、筒状部分は雄しべの花糸を中心に黄色を帯びる。雌しべの柱頭は3裂する。萼片も5枚で5数性であるが、仮雄しべを持たないのがイワカガミやイワウチワとは異なる。また、花冠裂片と雄しべの関係は花葉体形成のABCモデルを連想させる。



イワウメの開花は融雪日からの気温の影響を受ける。融雪日を起点として開花までに要する5℃以上の有効積算温度はウラシマツツジに次いで少なく、ミヤマキンバイ、ミネズオウと同程度の低温要求性を持つ。従って、同じ場所ではミヤマキンバイやミネズオウと一緒に花を観察できるということになる。

今から20年以上も前、吾妻山の高山植物の花の写真を撮影するために毎週のように通った時期があったが、その存在には全く気付かなかった。その後、登山道保全活動をNF米沢と協同で実施することになり、NFのTさんに植生地を教えていただき、初めてその存在を知ることとなった。イワウメはNF米沢との協同作業のシンボリックな花である。植生地は小規模で絶滅が危惧される。静かに見守りたい。

第138回自然観察会案内：安達太良・仏沢冬のブナ林観察会

日時：2015年3月15日（日）7:30～15:30

集合場所 四季の里交差点正面入口駐車場 集合時間 7:30 参加定員 20名

内容 箕輪山と鉄山の間を仏沢尾根に広がる冬のブナ林を散策します。

準備するもの 昼食、登山靴・長靴等、雨具、スパッツ類、防寒具、帽子、手袋（軍手複数）、着替、ゴミ袋、筆記用具、メモ帳、冬季歩行用具（スノーシュー、カンジキ、スキー）

*装備、その他不明な点があれば申し込み時にご相談下さい。

参加費用：保険代（300円）

申し込み：3月14日（土）まで佐藤守（024-593-0188）へ電話またはメールにてお願いします（電話申込は午後7時～9時でお願いします）。

2015年「高山の原生林を守る会」自然観察会計画

回数	期日	曜日	候補地	テーマ	担当者
第138回	3月15日	日	安達太良・仏沢尾根	ブナ林観察	小幡
第139回	4月12日	日	北霊山	霊山のスプリングエフェメラル	奥田
第140回	5月10日	日	斜平山	米沢のスプリングエフェメラル	佐藤守
第141回	7月12日	日	安達太良・烏川遊歩道	河辺の植物観察	佐藤和
第142回	9月27日	日	小野川不動滝周辺	秋の植物観察と芋煮会	佐藤久
第143回	11月29日	日	女神山	里山観察と総会	山内

●代替候補地（観察会候補地は変更になる場合があります）：蟹ヶ沢・中吾妻ブナ林・的場川コース

西吾妻登山道保全ボランティア

月日	曜日	山域	作業内容	備考
6月20日	（土）	天狗岩～西大巔	誘導ロープ設置	NF 米沢との共同開催
6月21日	（日）	（予備日）		
10月17日	（土）	天狗岩～西大巔	誘導ロープ取下	NF 米沢との共同開催
10月18日	（日）	（予備日）		

天元台ロープウェイの運行時期により変更する場合があります

2015年カタクリの会奥羽自然観察会計画

月日 （曜日）	回数	自然観察会 のテーマ	観察地	
1/18	日	289	冬の廻戸小屋	西和賀町廻戸
2/15	日	290	雪の自然観察	西和賀町沢内志賀来
3/29	日	291	春を探そう	西和賀町峠山
4/26	日	292	カタクリの里歩き	西和賀町七内・蛭山
5/24	日	293	夏の渡り鳥	西和賀町未来の森
6/14	日	294	鉱山跡地散策	西和賀町鷺合森
7/19	日	295	夏の星めぐり	西和賀町沢内星めぐりの森
8/23	日	296	ブナの森の滝巡り	西和賀町下前風景林
9/27	日	297	真昼滝巡り	西和賀町真昼山地
10/25	日	298	植樹と苗作り	西和賀町貝沢・星めぐりの森
11/8	日	299	冬の渡り鳥	西和賀町錦秋湖
12/6	日	300	冬の始まり	西和賀町内

- カタクリの会は西和賀町で、自然観察会開催を目的とした会です。
- 誰でも自由に参加できますが、各観察会の1ヶ月前から電話でのみ受付です。
- カタクリ通信を偶数月に発行しており、希望者には年間千円で送付致します。
（郵便振込みをご利用ください）
02350-5-38765 加人者名：
カタクリの会）
- 連絡先：〒029-5512
和賀郡西和賀町川尻 41-72-15
電話&FAX**0197(82)3601**
代表：瀬川強

新年度の会費納入をお願いします：郵便振替02170-0-24351「高山の原生林を守る会」へ

「高山」高山の原生林を守る会会報 第91号 2014年12月発行
編集・発行：高山の原生林を守る会 HP：<http://www15.plala.or.jp/adumatakayama/index.htm>
代表連絡先：佐藤守 Phone 024-593-0188（夜間7時～9時）
郵便振替：02170-0-24351 「高山の原生林を守る会」
入会方法：年会費（500円）を添えて上記まで
編集：佐藤・奥田・鈴木